

令和3年度 JAこうか いちじく生産部会 栽培暦

令和3年2月末時点

月	旬	生育状態	管理作業	内容 ※ポット栽培の場合、10aに720ポットを配置することとします。	環境こだわり農産物	
					農薬成分 (6成分以内)	化学窒素成分 (7kg/10a 以内)
2	下	休眠期	基肥	・菜種油粕 60kg/10a(植栽2年目までは、35kg/10a) ※菜種油粕は、生育状況によって減肥する ・エコロング70 20kg/10a(植栽2年目までは、10kg/10a) ・スーパーエコロング100 30kg/10a(植付2年目までは、10kg/10a)		7
3	上 中		せん定			
3	下	根の活動始め	かん水はじめ	以降、収穫終了(10月下旬)まで、土が乾かないように適宜実施する		
			カイガラムシ・ハダニ防除	・石灰硫黄合剤(7倍、発芽前)		
4	上	萌芽期	カミキリムシ防除	・ガットサイドS(原液塗布、4~7月但し収穫7日前まで、3回以内) ※株元から結果母枝まで塗布、新梢につくと葉害が出るので注意 ・園芸用キンチョールE(前日まで、2回以内) ※クワカミキリの食入被害が見られる場合。	使用回数を カウント	
	中		主枝誘引	主枝延長中の樹は、一字に誘引する		
	下	展葉期	上芽削り	主枝の背面から出ている不要な芽を除く		
5	上	新梢伸長期	草刈り	以降適宜実施する		
	中		芽かき	数回に分けて行い、横芽を50cm間隔を目安に残す		
			スリップス対策	タイベックまたはシルバーマルチを敷設してスリップス対策を行う		
			ネコブセンチュウ対策	・ネマトリンエース粒剤(収穫60日前まで、1回) ・バストリア水和剤	1	
6	上	果実肥大期	結果枝誘引	葉が10枚程度になったものから順次行う。7月中旬まで順次行う。		
	下		スリップス防除1回目 [ハウス:5月25日頃] [露地:6月5日頃]	・ジェイエース水溶剤(2000倍、収穫45日前まで、1回) ※最下段の果実の横径が2~2.5cmになった時に散布する。 ※目が開いてからでは遅い	1	
			スリップス防除2回目 [ハウス:6月10日頃] [露地:6月20日頃]	・スピノエース顆粒水和剤(5000倍、前日まで、1回)		
7	上	果実肥大期	追肥	・硫酸カリ15kg/10a(植栽2年目までは、9kg/10a)		
			ダニ防除 [ハウス栽培]	・ダニサラバフロアブル(1000~2000倍、収穫前日まで、2回以内) ※ハウス栽培などの乾燥した環境下でイチジクの葉裏に発生します。発生初期の 防除を徹底し、同一、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ※ダニ多発生時は以下の農薬を追加使用 ・コデツフフロアブル(2000倍、収穫前日まで、2回以内) ・マイトコーネフロアブル(1000倍、前日まで、1回)	使用回数を カウント	
			スリップス防除3回目 [ハウス:6月25日頃] [露地:7月5日頃]	・アクタラ顆粒水和剤(2000倍、前日まで、2回以内) または ・モスピラン顆粒水溶剤(2000倍、前日まで、3回以内)	1	
			疫病防除 [露地栽培]	・ランマンフロアブル(2000倍、前日まで、3回以内) ※多発園は予防的に防除を行う。 ※発生した場合は治療剤として以下の農薬を使う。 ・アミスター10フロアブル(1000倍、前日まで、3回以内)	使用回数を カウント	
			摘心・かん水	摘心:15節で摘心する かん水:梅雨明け後は、3~4日ごとに行う		
	下		《熟期促進》	・エスレル10(500~1000倍、成熟予定15日前、1果あたり1回) ※エスレルは、若木(1~2年生)には使用しない。 ※エスレル10は環境こだわり栽培において1回の処理ごとに1カウントとなるので注意 ※使用濃度は7月下旬~9月中旬は1000倍、9月下旬~は750倍を目安にする。	使用回数を カウント	
			イチジクヒトリモドキ防除 ※発生初期に散布する。	・モスピラン顆粒水溶剤(2000倍、前日まで、3回以内)	使用回数を カウント	
		ショウジョウバエ防除 ※発生初期に散布する	・アーテント水和剤(1000倍、前日まで、2回以内)	使用回数を カウント		
8	上	収穫期	わき芽とり	先端のわき芽は2~3節残して摘心し、その他のわき芽は、大きくなるまでに基部からかきとる。8月下旬まで、順次行う		
			収穫開始	収穫果実は、光沢剤を処理し、パック詰めして出荷する		
			黒かび病防除 [露地栽培]	・ロズラール500アークア 1000倍 収穫3日前 3回 ※黒かび病害果等は、収穫期に降雨が続くと発生するので注意する。	使用回数を カウント	
	下		礼肥 (8月下旬)	・菜種油粕40kg/10a(植栽2年目までは、24kg/10a)。		
			さび病防除 [露地栽培]	・ラー水水和剤(2000倍、収穫前日まで、4回以内)を散布。 ※さび病発生が心配される園では予防散布を行う。	使用回数を カウント	
9,10						
11	下		落葉処理			
12	上	休眠期	土づくり	・苦土石灰120kg、BMようりん40kg、牛糞堆肥2t(10aあたり)		
	中		越冬病虫害防除	・マシン油乳剤95(14倍)		
	下		凍害対策	・ホワイトンパウダー塗布 ・わら巻き(寒冷地)		

※農薬使用の際には、ラベルに従って下さい。

※薬剤抵抗性害虫の発生を避けるため、同じ薬剤を続けて散布しないようにしましょう。

※環境こだわり栽培者は、農薬成分数に注意しましょう。